

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【公民／現代社会】

1. 対象（実施を想定する学校・生徒の実態の概要）

対象クラスでは、生徒全員が四年制大学、専門学校等への進学を希望している。生徒は教員の説明をよく聞くことができ、ワークシートをもとに論理的に考察し、表現する学習に取り組んでいる。各単元に1回程度、学習課題をもとにしたグループワークを行い、社会に暮らす人々の様々な立場や多様な視点からの見方・考え方を比較・統合し、自己の考えを構築できるよう指導している。

2. 単元名「現代の民主政治システムにおける政治参加の意義」（全7時間）

3. 単元で育成すべき資質・能力の三つの柱につながる単元の評価規準

①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 政治参加と公正な世論の形成、地方自治、などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解している。 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 現代の民主政治と政治参加から課題を見いだしている。 合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠を持って表現している。
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 現代の民主政治と政治参加について現代社会における課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。 仲間との対話を通して自分の考えを修正したり、論拠を強めたりしている。 仲間との対話が、新しい考えを生み出すきっかけとなることに気付いている。

4. 本時の目標

答えが一つでない問いに対して、複数の資料をもとにした多様な考えを対話によって比較・統合し、他者の考えに触発されることで自己の考えが変容したり、自己の主張の論拠が強くなったりすることを経験しながら、自己の主張を論理的に表現することができるようになる。（思考・判断・表現）

5. 授業展開【**本時**・単元】

解決したい課題や問い
消費期限間近のコンビニの食品を使って、その日の食べ物に困っている子どもたちに与えるシステムに賛成か、反対か？その理由を根拠にもとづいて説明してください。

考えるための材料A	考えるための材料B	考えるための材料C
<p>「売れ残り」貧困の子へ「偏見助長も」現場危惧</p> <p>子どもの貧困対策の一環で、福岡県がコンビニから消費期限間近のパンなどを譲り受け、NPO団体を通じて、その日の食べ物に困っている子どもたちに提供した。「捨てることになるくらいなら、子どもの支援にまわした方がマシ」という考え方に疑問を投げ掛ける資料。</p> <p>「毎日新聞 2016. 3. 31」</p>	<p>食べられる食料品を捨てる心の痛み</p> <p>コンビニ店長が、利益追求のため欠品を起こさないよう積極的に発注することと、食べられる食品を毎日捨てることとの狭間で悩む胸の内が明かされる資料。</p> <p>三宮貞夫『コンビニ店長の残酷日記』小学館新書</p>	<p>社会・経済インフラとしてのコンビニ</p> <p>「コンビニには、雇用創出、地産地消、商店街対策、防犯、買物弱者、高齢者の見守りなどの社会問題を解決し得る可能性がある」という内容の資料。</p> <p>根城 泰『最新コンビニ業界の動向とカラクリがよ〜くわかる本』秀和システム</p>

想定される活動	想定される活動	想定される活動
「なぜ、消費期限間近の食品を使って、その日の食べ物に困っている子どもの支援することについて考察する。廃棄対象食品による支援は、人間の尊厳を傷つける可能性を持つことに気付く。	「なぜ、コンビニでは食べられる食品が大量に廃棄されているのか？」について考察する。棚いっぱいの在庫が購買意欲をかき立て、売り上げを増やすと同時に、売れ残り食品の大量廃棄にもつながることに気付く。	「これからの社会において、コンビニに、どのような役割を期待できるか？」について考察する。社会インフラ機能を持ったコンビニが、社会の持続可能な発展に貢献し得ることに気付く。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

対話の方法

【エキスパート活動】（8分）

資料A、B、Cごとに3人グループをつくり、資料を読み込んだ上でエキスパート課題に取り組む。対話を通して課題に対する考えをまとめ、根拠を持って論理的に説明できるように準備する。

A：「捨てるものを食べさせるのはどうなのかな？」「子どもの尊厳を重視すべき？」

B：「廃棄を減らす工夫が必要じゃないかな？」「消費期限前ならいいんじゃない？」

C：「コンビニができることって限られてるんじゃないかな？」「社会貢献ができそうかな？」

【ジグソー活動】（12分）

資料A、B、Cのエキスパート1人ずつから成る3人グループをつくり、ジグソー課題『消費期限間近のコンビニの食品を使って、その日の食べ物に困っている子どもたちに与えるシステム』に賛成か反対か？』に対する見解をまとめる。異なる3つの考えを比較・統合しながら、葛藤の中で自己の考えを形成する。

「廃棄対象食品での支援は**貧困と廃棄物問題**の両方を解決できていいんじゃないかな？」

「物理的に問題解決できて**人間の尊厳**を傷つけることは認めるべきじゃないだろう？」

「**メリットとデメリット**のどちらを優先すべきだろう？」

「コンビニができる**社会貢献**として**持続可能**で尊厳を傷つけない方法があるんじゃないか」

【クロストーク】（10分）

各グループによる話し合いの過程やまとめた見解を発表しあう。他者の考えに触発され、考えが揺さぶられる体験を今一度持つ。教師が提示する次時の学習課題「社会・生活インフラ企業『コンビニ』を起点としたまちづくりを提案しよう」に対し、自分なりのプランのアイディアを思いつく。

思考のプロセス

【複数論拠にもとづく自信を持った主張】

それまで持ち得ていなかった新たな視点を含む複数の論拠にもとづき、自信を持って主張し合ったり、互いに質問し合ったりすることができるような話し合いを引き出す。

【多様な見方・考え方に基づく判断】

「解決したい課題や問い」について、自分が既に持っている情報に加え、他者の意見など多様な見方や考え方を比較・統合して考えた上で、賛否の判断を行い、根拠をもって説明する。

【具体的な提案や新たな課題への気付き】

自信を持って主張できる論拠をもとに質問し合ったり、他者の考えにヒントを得て考えたりする過程で、自分の考えが整理され、具体的な提案を行ったり、新たな課題を発見したりする。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・反対。食品を効率よく利用するシステムは合理的でよいと考えていたが、「捨てるくらいなら、その日の食べ物に困っている子どもたちに配給しよう」という考え方が、**人間の尊厳**を傷つけるという視点は持っていなかった。このような子どもたちの支援については、給付金などの社会保障制度を充実させる方向で考えるべきではないか。
- ・賛成。確かに、棚が隙間だらけのストアは商品管理が行き届いていないイメージがあり、入店すらためらってしまう。消費期限間近の食品を利用した支援システムは効率的が良いし、無数にあるコンビニが社会・経済インフラとして供給源の役割を果たすから、配送コストも抑えられる。
- ・条件付きで賛成。支援を受ける子どもたちは、心のどこかに惨めな思いを抱えることになるのではないだろうか。宅配と組み合わせたり、週に一度「みんなで廃棄対象食品を使った朝食を食べる日」を設けたりするなど、支援とは異なる持続可能な発展へとつながる具体的な方策を更に考えてみたい。